

北九州市営バス 若松区に2新路線

高齢者の生活支援

若松、八幡西両区を中心に市営バスを運行する北九州市交通局は26日から、若松区東部を走る「お買物バス」の運行を始める。高齢者が多い若松区の高台を走る2路線を新設する。市営バスは今年3日から産業医科大病院(八幡西区医生ヶ丘)に乗り入れるバスを大幅に増便している。新路線開設やダイヤ改正によって高齢者などが利用しやすくなることで、利用者増につなげたい考えだ。

産業医大乗り入れ増便

お買物バスは若松区の今光峠から東側を走り、産業医科大若松病院(同区浜町)が終点の石峰山コース(約7キロ、1日4往復)と、畑谷町が発着で高塔山の北側

地を結ぶ路線の要望は以前からあった。細い道が多く、通常のバスは乗り入れが難



26日に運行を始める「お買物バス」と同じ型のミニバス

しかったので、今年3月に導入した乗客定員9人のミニバスを走らせる。1便あたり3、4人の乗客で採算を確保できるという。

また産業医科大病院に向かう便の大半は病院入り口から数百メートル離れたバス停に止まっていたが、今年3日から敷地内に乗り入れるよう変更。その上でJRからの乗り継ぎ客を念頭に、JR本城駅(八幡西区力丸町)と同病院を結ぶ平日1日11便の循環線を新設。同病院への乗り入れは平日1日8便から同54便に増えた。

交通局はこの1年あまり、日祝日の運行便数を約4割減らすなど運行ダイヤを大幅に見直した。今後も新路線の利用状況を踏まえてダイヤ見直しを進める方針。

(古瀬哲裕)

(掲載について西日本新聞社許諾済、無断転載(コピー、スマートフォン等での撮影)禁止)